

「第12回全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京」 実施要項（詳細）

■大会名

「第12回全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京」

■大会趣旨

ひきこもりをはじめとする若者支援に関わる個人や団体が、交流と学びあいを通して実践力とネットワークを育ていくために、全国各地で実践交流会が開催されてきました。昨年度の福島に続き今年度で12回目を迎えています。実践交流会を通して、若者の生きづらさの背景には、教育・医療・家族・就労・貧困問題などが複合化して存在しており、社会そのものが若者にとって生きづらいものになっていることを明らかにしてきました。若者が生きやすく働きやすい社会をつくっていくにはどのような取り組みが必要なのか、さまざまな立場・分野を越えて各地の実践を交流し議論していく必要があると考えています。

この取り組みで目指されてきたことは、全国の様々な実践から学び合う交流はもとより、現地の実行委員会が大会を協同で創り上げるプロセスを通して、現地のネットワークだけでなく、全国の実践との連携へとネットワークを広げることです。今年度の東京大会は、文字通り、若者をめぐる課題を総合的に議論するテーブルづくりが目指されます。

■大会テーマ 「生きづらさに抗して、ともに社会をつくる」

■開催日 2017年3月4日（土）13:00～
3月5日（日）9:30～

■開催場所

駒澤大学駒沢キャンパス

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

東急田園都市線「駒沢大学」駅より徒歩約10分

（「駒沢大学」駅までのアクセス・・・東急田園都市線「渋谷」駅より約7分）

■開催内容

（1） 全体シンポジウム

この実践交流会では、「実践者同士の出会いと交流、学びの場」を軸に据えながら、その時々において直面している課題について、現場の実践に根ざした検討をすすめてきました。そのなかで、「居場所／しごと／暮らし（住まい）」という実践領域の区分や、「〈支援〉から〈協同実践〉へ」という実践主体のスタンス等を見出してきました。それらを踏まえつつ、本大会ではもう1歩踏み込んで、実践者同士が「学ぶ／交流する」というだけでなく、「創造する」という次元にもアプローチしてみたいと思います。制度・政策も含めて、私たちはどういった社会を展望していくことができるのか、「生きづらさに抗して、ともに社会をつくる」というテーマに即しながら、語り合います。

コーディネーター：南出吉祥さん（岐阜大学）、シンポジスト：各地の実践者数名

(2) テーマ別分科会

今回は8つのカテゴリーをおき、14のテーマ別分科会を設けています。それぞれのテーマごとに2日間にわたって実践報告や議論を展開していきます。また、カテゴリーごとに全体会や基調講演などを企画しています。

【分科会の2日間の流れ（分科会ごとで企画内容が異なります。）】

カテゴリー	分科会	セッションⅠ (1日目 16:00~18:00)	セッションⅡ (2日目 9:30~11:30)	セッションⅢ (2日目 12:30~14:30)
A	①	分科会（セッションⅠ～Ⅲと議論・レポート報告は通しで行われます）		
	②	分科会（セッションⅠ～Ⅲと議論・レポート報告は通しで行われます）		
B	③	ミニシンポジウムを実施 (③、④合同)	分科会③（1日目のシンポ内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
	④		分科会④（1日目のシンポ内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
C	⑤	基調講演を実施 (⑤、⑥合同)	分科会⑤	⑤⑥合同で分科会での議論内容を共有し、さらに深めます
	⑥		分科会⑥	
D	⑦	基調講演を実施 (⑦、⑧合同)	分科会⑦（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
	⑧		分科会⑧（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
E	⑨	基調講演を実施 (⑨、⑩合同)	分科会⑨（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
	⑩		分科会⑩（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
F	⑪	基調講演を実施 (⑪、⑫合同)	分科会⑪（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
	⑫		分科会⑫（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
G	⑬	基調講演を実施	分科会⑬（1日目の基調講演内容をふまえて、セッションⅡⅢと通しで議論・レポート報告が行われます）	
H	⑭	分科会（セッションⅠ～Ⅲと議論・レポート報告は通しで行われます）		

※当日スケジュール変更の可能性があります。最新情報はHPをご確認ください。

※途中参加や退出は自由ですが、分科会ごとで2日間にわたって完結するような流れで企画しているため、1つの分科会に2日間連続で参加されることが望めます。

A【多様な「居場所」をつなぐ】（分科会①・②）

いろいろな意味を込めて用いられる「居場所」について、その多様性を認め合いながら、その意義と課題を探ります。

分科会①：支援者の想い／若者のニーズ

「居場所」には「このような場をつくりたい」という支援者の想いと同時に、「このような場がほしい」という若者のニーズも存在します。この分科会では「居場所」を構成する両者の「期待」から、「居場所」がいかなる場であることを求められており、そうした期待に対していかなる場でありうるのか考えていきます。

コーディネーター：御旅屋達さん（東京大学）

井利由利さん（公益社団法人青少年健康センター（茗荷谷クラブ）／東京）

コメンテーター：原未来さん（滋賀県立大学）

分科会②：居場所に出会うジレンマ

理念や思いをもって関わっている居場所なのに、日々の運営や目の前の課題に追われて、現実と目指しているもの・理念とのすりあわせをする余裕がもてない。こうした実践課題の解消のために、この分科会では、それぞれの居場所が目指すもの・理念を確認しながら、現実に向き合っている運営上の諸課題の解決に向けた方策を議論し、理念・思いの実現につながる活動のあり方を考えていきたいと思えます。

コーディネーター：井口啓太郎さん（国立市立公民館／東京）

阿比留久美さん（早稲田大学）

コメンテーター：野中康寛さん（社会福祉法人一麦会 麦の郷／和歌山）

B【住まい・生活を視点として】（分科会③・④）

ひきこもり・生活困窮者等の課題を、「家庭への支援」「一歩踏み出す住まいの支援」の両側面から考えます。第Ⅰセッションでミニシンポジウムを行います。

シンポジスト：湯浅誠さん（社会活動家・法政大学）

谷口仁史さん（NPO 法人スチューデント・サポート・フェイス／佐賀）

川北稔さん（愛知教育大学）

分科会③：ひきこもる家庭への支援

生活困窮支援が開始され、ひきこもりの相談機関は制度としても広がってきています。ここでは、改めてひきこもりの長期化・高齢化の背景を押さえるとともに、家庭へのアウトリーチ（訪問支援）のあり方について考えていきます。

コーディネーター：中川健史さん（NPO 法人仕事工房ポポロ／岐阜）

コメンテーター：川北稔さん（愛知教育大学）

分科会④：支援の場としての「住まい」を考える

支援機関の近所への引っ越し、共同生活、シェアハウスの事例を参考に、若者の状態（ひきこもり・ホームレス・児童養護施設等退所後、等）にあわせた場づくり、段階的な支援のあり方を考えていきます。

コーディネーター：佐藤吉行さん（NPO 法人グッド／東京）

綿貫公平さん（NPO 法人文化学習協同ネットワーク／東京）

コメンテーター：湯浅誠さん（社会活動家・法政大学）

C【ともにいたらく】（分科会⑤・⑥）

職場と若者がともに「より良いはたらき方」を模索する実践から課題を共有し、その解決策を探ります。

第1セッション基調講演 駒宮博男さん（NPO 法人地域再生機構／岐阜）

分科会⑤：「しごと」づくり

自然と共生し、社会資源の活用を通じた地域づくりにおいて新しい仕事が生み出されています。こうした働きがいのある人間らしい仕事の実践から、ともに生きる人と人の関係を結びなおすためのヒントを探ります。

コーディネーター：古村伸宏さん（労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会／東京）

楠野晋一さん（一般社団法人協同総合研究所／東京）

コメンテーター：大高研道さん（聖学院大学）

分科会⑥：ともにいたらく職場へ

企業・事業所が若者を受け入れる取り組みが広がり、そのネットワークをつくる試みも始まっています。企業と若者をつなぐ上での課題を明らかにし、若者を受け入れる企業の方々とともに解決策を考えます。

コーディネーター：橋本光生さん（わかもの就労ネットワーク／東京）

高橋薫さん（NPO 法人文化学習協同ネットワーク／東京）

コメンテーター：小杉礼子さん（独立行政法人労働政策研究・研修機構）

D【生き心地のよい多世代共生を育む地域づくり】（分科会⑦・⑧）

「暮らし・学び・働き」を結んで、若者が成長する地域づくりの実践とそれを通じた政策づくりを展望します。

第1セッション基調講演 向谷地生良さん（社会福祉法人浦河べてるの家／北海道）

分科会⑦：地域の課題を仕事にする若者の働き方・暮らし方

若者が持っている潜在的な力は、地域の課題と真正面から向き合い、「はたらく」ことを通して豊かに発揮されます。若者が学び、人間的に成長できる仕事を地域からつくり出すとはどういうことか、実践事例を通してその在り方を考えます。

コーディネーター：志波早苗さん（生活サポート生活協同組合・東京／東京）

中村雄介さん（NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝／大阪）

コメンテーター：川本健太郎さん（立正大学）

分科会⑧：若者の学びと育ちを育む、地域と政策づくりの展望

遊びや学びを通して、地域づくりに主体的に参加する実践、制度を活用した地域のつながりづくりの実践から、若者が主体的に学び、成長するための地域づくりの可能性と課題、ひいては政策づくりへの展望を探ります。

コーディネーター：玉木信博さん（労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会／長野）

竹内佑一さん（PSI カウンセリング／大阪）

コメンテーター：田中夏子さん（協同組合研究者・農／長野）

E【官民でひらく若者支援】（分科会⑨・⑩）

若者を取り巻く問題が政策課題となってようやく十年。草の根で長らく担ってきた民間と自治体・国の施策の協同実践を検証します。

第Iセッションでミニシンポジウムを行います。

シンポジスト：宮本みち子さん（放送大学）

保坂展人さん（世田谷区長／東京）

コーディネーター：佐藤洋作さん（NPO 法人文化学習協同ネットワーク／東京）

分科会⑨：自治体若者政策

さまざまな分野にまたがる各種制度をどのように組み合わせ、全体としての「若者政策」を構築していけるか、また、福祉と教育と雇用などの専門機関の連携、行政と民間との連携はどのように進んでいるのか、さらには、若者支援ネットワークは機能しているのか、先進的・挑戦的な自治体の取り組みの実践から学びます。

コーディネーター：篠原健太郎さん（労働者協同組合ワーカーズコープ連合会／東京）

佐藤洋作さん（NPO 法人文化学習協同ネットワーク／東京）

コメンテーター：西岡正次さん（A´ワーク創造館／大阪）

分科会⑩：若者自立挑戦プランから13年、若者施策の現場での展開

この分科会では、若者課題への施策にこれまでどのような役割や機能が期待され、どのようなニーズが寄せられているのかなど、現場でのローカルな到達と課題、施策の意義を確認していきます。

コーディネーター：北川裕土さん（労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会／東京）

藤井智さん（NPO 法人文化学習協同ネットワーク／東京）

山本賢司さん（認定 NPO 法人育て上げネット／東京）

コメンテーター：宮本みち子さん（放送大学）

F【若者支援と発達障害・精神障害】（分科会⑪・⑫）

発達障害や精神障害をもつ若者と、いかに豊かな実践を創り出していけるのか、各地での取り組みを交えて考えます。

第1セッション基調講演：山本耕平さん（立命館大学）

分科会⑪：支援現場で出会う若者たちが持つ「特性」をどう理解するか

若者支援の現場では、さまざまな対応や判断が求められます。ここでは、支援の入り口にあたる時期に焦点をあて、「どのように見立てをおこなっているのか」「本人・家族にどう伝えているのか」など、各地での実践を交えて意見交換をおこないます。

コーディネーター：岡部茜さん（立命館大学大学院）

朴明生さん（NP 法人まひろ／東京）

コメンテーター：山本耕平さん（立命館大学）

分科会⑫：様々な特性を持つ若者たちの「次の一歩」をどう支えるか

「次の一歩」を踏み出すことに若者自身が躊躇することも少なくありません。この分科会では、若者たちの「次の一歩」へつながる活動の工夫と、地域ネットワークづくりについて、各地の実践を交えて意見交換をおこないます。

コーディネーター：中塚史行さん（NPO 法人教育サポートセンターNIRE／東京）

永塚賢二さん（NPO 法人ゆどうふ／東京）

コメンテーター：尾崎ミオさん（NPO 法人東京都自閉症協会／東京）

G【不登校・フリースクールをめぐる行政と民間の連携】（分科会⑬）

この分科会では、「教育機会確保法」の成立をきっかけとして捉え、不登校支援を実効性のあるものとし、子どもたちが安心して学び、休み、育つことのできる社会を実現するための官民の連携のあり方を議論します。

第1セッション基調講演：古庄健さん（登校拒否・不登校問題全国連絡会／大阪）

コーディネーター：古庄健さん（登校拒否・不登校問題全国連絡会／大阪）

松島裕之さん（NPO 法人フリースクール全国ネットワーク／東京）

山本尚由さん（不登校・登校拒否を考える東京の会／東京）

コメンテーター：横井敏郎さん（北海道大学）

H【「若者の性」と支援の課題】（分科会⑭）

性のあり方、セクシュアリティは、一人ひとりみんな違います。その違いは、自分の存在や人との関係性、未来へとつながります。これまで若者支援の分野でクローズアップされなかったこのテーマについて、参加者でともに考え、今後の実践課題を展望しましょう。

コーディネーター：辻岡秀夫さん（NPO 法人ゆどうふ／東京）

南出吉祥さん（岐阜大学）

コメンテーター：金子由美子さん

（“人間と性”教育研究協議会、NPO 法人さいたまユースサポートネット／埼玉）

※開催内容の詳細に関しましては、HP（<http://www.jycforum.org/>）に順次掲載していきます。最新の情報はHPをご覧ください。

■大会スケジュール

3月4日（1日目）

- 12:00 開場・受付開始
- 13:00 開会あいさつ・基調報告
- 13:50～15:30 全体シンポジウム
- 16:00～18:00 テーマ別分科会 第Ⅰセッション
- 19:00～ 懇親会

3月5日（2日目）

- 9:30～11:30 テーマ別分科会 第Ⅱセッション
- 11:30～12:30 昼休憩
- 12:30～14:30 テーマ別分科会 第Ⅲセッション
- 14:45～16:00 おわりのつどい
- 16:00～17:30 後夜祭

（他にもテーマ別分科会と並行してロビー企画等を計画中です。）

■参加申し込み方法

（1）参加申し込みと受付の流れ

1. 別紙「1.大会参加申込書」に、必要事項をご記入の上、富士国際旅行社へFAX、郵送またはメールでお送りください。お電話でのお申し込みは承れません。
申込締切日は、2月20日（月）です。
2. 宿泊ホテルの手配を希望される方は、別紙「2.宿泊申込書」もお送りください。なお先着順で受け付けますので、ご希望のホテルが確保できない場合もございます。
宿泊の申込締切日は、1月31日（火）です。
3. 「参加申込書」「宿泊申込書」に記載の振込先の銀行口座へ、2月24日（金）までに費用のお振り込みをお願いいたします。（振込手数料はご負担ください。） 宿泊もお申し込みの場合、お振り込みは2枚の申込書の合計額でお願いいたします。
4. 費用のご入金確認後に、富士国際旅行社から「受領書」をお送りいたします。この「受領書」が、大会当日の受付で必要ですので、必ず当日ご持参ください。 宿泊ホテルを申し込まれた方には、ホテルのご案内も同時にお送りいたします。複数でまとめてお申し込みの場合、申込代表者の方へ一括でお送りいたします。
5. お申し込み後にキャンセルされる場合には、各項目のご案内に記載の取消料を申し受けますので、後述の各項目の欄を必ずご確認ください。

※申し込み用紙はHPからダウンロードが可能です（エクセル、PDF版）。また、1名様分の参加申込はHPの参加申し込みフォームからご登録いただけます。

(2) 参加費について

【大会参加について】

参加費 一般：3,000円 / 学生・当事者：1,000円

*取消料は大会前日から100%申し受けます。

*「学生・若者」は自己申告です。収入がないなど、3,000円の支出が難しい方は若者料金でお申し込みください。年齢が若くても、収入のある方は「一般」枠でのご参加をいただくと助かります。

【懇親会について】

日時：2017年3月4日(土) 19:00～ 場所：駒澤大学 学生食堂

会費：4,000円

*取消料は大会前日から100%申し受けます。

【宿泊について】

※ 宿泊日 2017年3月4日(土) 1泊朝食付消費税込

※ 最少催行人員：1名様 添乗員：同行いたしません。

	ホテル名	客室タイプ	宿泊料金	会場最寄り駅
1	ホテル梶ヶ谷プラザ	シングル	8,500円	乗換なし 所要18分「梶ヶ谷」駅徒歩8分
2	川崎第一ホテル溝の口	シングル	8,500円	乗換なし 所要15分「溝の口」駅徒歩1分
3	ホテルKSP	シングル	9,500円	乗換なし 所要15分「溝の口」駅バス5分
4	東横イン武蔵中原駅前	シングル	7,500円	1回乗換 所要25分「武蔵中原」駅徒歩1分
5	東横イン旗の台南口	シングル	7,500円	1回乗換 所要28分「旗の台」駅徒歩3分
6	東横イン品川大井町	シングル	7,500円	1回乗換 所要35分「大井町」駅徒歩3分

(3) 参加・宿泊の問い合わせ・申し込み先

株式会社富士国際旅行社

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 宮庭ビル 4階

TEL:03-3357-3377 FAX:03-3357-3317

Mail: onodera@fits-tyo.com

営業時間：月～金曜日/AM9:30～PM6:00 (休業日：土日・祝日)

担当：小野寺

宿泊ホテルをお申込の方は、下記の旅行条件を必ずお読みください

国内募集型企画旅行ご旅行条件書（要約）

- この旅行条件は、宿泊ホテルの予約に適用されます。大会参加、懇親会等には適用されません。ホテルを お申込みの際には、必ず旅行条件書をご確認いただき、事前に内容をご確認の上、お申し込みください。
- 募集型旅行契約／この旅行は株式会社富士国際旅行社(東京都新宿区新宿 2-11-7 宮庭ビル 4階 以下「当社」という)が企画・実施する旅行であり、この旅行に参加されるお客様は当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」という)を締結することになります。旅行条件は、下記面及び当社旅行業約款募集型企画旅行契約の部によります。
- 旅行のお申し込み及び契約成立時期／(1)別紙の宿泊申込書に所定の事項を記入し、大会参加申込書と一緒にお申し込みください。(2)旅行契約は、当社が契約の締結を承諾し、旅行代金受領したときに成立するものとします。但し、本契約に関しましては、ご予約確認書に記載の金額に基づくお振込が完了した時点で、旅行契約が成立したものとします。ご入金の確認後に、弊社から「受領書」をお送りいたします。
- 旅行代金に含まれるもの／宿泊代、朝食代、サービス料及び消費税等諸税。これらの費用は、お客様の都合により一部利用されなくても原則として払い戻しいたしません。(ご案内に含まれない諸費用及び個人的費用 は含みません。)
- 特別補償／(宿泊ホテル予約に適用されます。大会参加、懇親会等には適用されませんので、ご了承ください。)当社は、当社又は当社が手配を代行させた者の故意又は過失の有無にかかわらず、募集型企画旅行約款 別紙特別補償規程に基づき、お客様が募集型企画旅行参加中に急激かつ偶然な外来の事故により、その身体、生命又は手荷物等に被った一定の損害について、以下の金額の範囲において、補償金又は見舞金を支払います。・死亡補償金：1500万円・入院見舞金：2～20万円・通院見舞金：1～5万円・携行品損害補償金：お客様1名につき～15万円(但し、補償対象品1個あたり10万円を限度とします。)身体外部から有毒ガス又は有毒物質を偶然かつ一時に吸入、吸収又は摂取したときに急激に生ずる中毒症状(継続的に吸入、吸収又は摂取した結果生ずる中毒症状を除きます。)を含みます。ただし、細菌性食物中毒は含みません。

<免責事項>

- 国内旅行保険への加入について／旅行先において、けがをした場合、多額の治療費、移送費等がかかることがあります。また、事故の場合、加害者への損害賠償請求や賠償金の回収が大変困難であるのが実情です。これらの治療費、移送費、また、死亡・後遺障害等を担保するため、お客様自身で十分な額の国内旅行保険に加入することをお勧めします。詳細・お申し込みは富士国際旅行社までお問合せください。
- 事故等のお申出について／旅行中に事故などが生じた場合は、直ちに現地係員・運送・宿泊機関等旅行サービス提供機関、又は、お申込み個所にご通知ください。(もし、通知できない事情がある場合は、その事情がなくなり次第ご通知ください。)
- 個人情報の取扱いについて／当社は、旅行申込の際に提出された申込書等に記載された個人情報について、お客様との間の連絡のために利用させていただくほか、お客様がお申し込みいただいた旅行において運送・宿泊機関等の提供するサービスの手配及びそれらのサービス受領のために手続に必要な範囲で利用させていただきます。また、大会運営に伴い、情報共有のために大会主催事務局へ情報を提出し利用させていただきます。
- 旅行条件・旅行代金の基準／この旅行条件は2016年12月1日現在を基準としています。又、旅行代金は2016年12月1日現在の有効な運賃・規則を基準として算出しています。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第84号 日本旅行業協会正会員 株式会社富士国際旅行社

〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 宮庭ビル4階

TEL：03-3357-3377 FAX：03-3357-3317

営業時間：月～金曜日/AM9：30～PM6：00（休業日：土日・祝日）

担当：小野寺

■大会に関する問い合わせ・連絡先

現地事務局（NPO 法人教育サポートセンターNIRE 内）

住所：〒142-0053 東京都品川区中延 5-6-14-2F

TEL：070-1251-4394（問い合わせ用）

FAX：03-3784-5609

Mail：tky.wakamono@gmail.com

全国事務局（NPO 法人コミュニティワーク研究実践センター 月形事業所内）

住所：〒061-0051 北海道樺戸郡月形町字本町 8 番地

Mail：info@jycforum.org

HP：http://www.jycforum.org/